



牛舎で様々なものに触れて遊ぶ長女



にんにく畑にて、悠紀さんと長女

## 家族で畑開き

×

「獣医&和牛農家&にんにく農

家」  
おおくぼゆうき  
大久保悠紀さん

雪が溶けて暖かくなる頃、農家の仕事が始まる。にんにくの畑を見回ったり、追肥したり、義実家の「オーク牧場」で働く悠紀さんは、田子町に移住してから4回目の春を迎える。

悠紀さんは岩手県盛岡市生まれ。夫の成さんとは岩手県内の大学で知り合い、就職後に獣医として同じ診療所に所属し、その後付き合い結婚した。結婚後に「実は将来は田子に戻って実家の牛の診療と世話をするつもりだ。一緒にきてほしい」と言われ、そちらの方が自分に向いているのではと考え、了承した。長女を妊娠・出産してから田子町に移住し、保育環境の良さに感動した。「町内の保育園は熱心に保育してくれているし、子どもが走り回れる広い公園もある。車通りは少なく、サンモール内で小学生が遊んでいたりと、『みろく館』で中学生が勉強していたり、大人が目がある中で子どもがある程度自由にのび

のび遊ぶことができる環境が素晴らしい」

「特に、保育園や学校の帰りに行ける距離に図書館があるので、子どもがわからないことは図書館で調べる癖がついてとても良かった」と話してくれた。

大久保家では、黒毛和種の牛の肥育などの世話を生業としていて、「田子牛」というブランド牛として出荷している。数年前から自家牛糞堆肥を使用したにんにく栽培も始めた。牛は昔から牛糞堆肥が活用されるなど、農業と深い関わりがあった。しかし畜糞からつくられる堆肥に良い印象を持たれないことも多く、「タダ」で持っていてももうものという認識になってしまった。「しっかりと温度調節して病原菌を殺菌するなど適切に管理すれば、十分有効に使える。持続的な循環型の農業がもっとと広がることを願う」と話す。

今後の展望は「オーク牧場のPRや、農泊

体験の受け入れも少しずつしていきたい。こ

の春に第2子が生まれるので、牛とにんにく

と、時々獣医として家族で幸せに暮らしてい

ければと思う」と穏やかに話してくれた。



獣医姿の悠紀さん

# 春と人

コンシェルジュレポート

レポート (令和5年春)

木村知子 神奈川県出身

田子町定住移住コンシェルジュ

(田子町地域おこし協力隊)